

## ■テーマ展

## 旅の記憶～江戸時代から現代まで～

会期：平成21年12月19日(土)～平成22年2月28日(日)

会場：特別展示室

## 旅のはじめに

現代に生きる私たちはさまざまな機会に旅へ出ます。近場の温泉から海外の秘境まで行き先はさまざまです。その目的も、さまざまです。この展覧会では、当館が所蔵する資料を中心に、江戸時代から現代までの旅の様子を紹介します。

旅にはかならず主人公が存在します。その主人公がどんな目的をもち、どこへ向かうのか—その時新しい旅物語が幕を開けるのです。

## 江戸時代の旅

「江戸時代の旅」と聞いて皆さんはどんな旅を想像しますか？ここでは、武士の出張旅行を紹介します。『三閑伊日記』は盛岡藩の役人が藩の命令で、葛巻・久慈を経て沿岸各地を巡る出張旅行の記録です。旅の目的は各地からの負担金の徴収でした。この史料は絵と文章で記録されており、小さな集落についても家数が詳しく記されています。旅は田野畑～宮古～釜石～遠野～盛岡というルートをとって、1ヶ月半の旅を終えています。



『三閑伊日記』（館蔵）より宮古の全景

もう一つの物語は庶民の旅です。江戸時代の旅には多くの制約がありました。その中で、俗に「お伊勢参り」と呼ばれる社寺の参詣旅行は農閑期の10月から翌年の3月にかけて行われる、大掛かりな旅行でした。伊勢神宮や善光寺など、

全国各地の神社・仏閣を巡る旅を記録した「往来手形」や「道中記」に旅の様子を見てとることができます。「往来手形」は居住地の檀那寺が発行した旅行証明書です。「道中記」は宿泊地と旅程が記された旅日記です。展示では「お伊勢参り」など、遠方への旅行だけでなく、釜石の尾崎神社への参詣旅行についても紹介します。

## 明治天皇～若き日の東北巡幸～

次の旅物語の主人公は若き日の明治天皇です。『明治九年 明治天皇行幸岩手県順路絵図』（川口月泉画）は明治9年（1876）に当時24歳の天皇が、東北地方を「巡幸」した際に滞在した岩手県内の風景が、地名や日付入りで描かれている絵です。この旅には大隈重信や岩倉具視など、明治政府の中心人物も随行しました。現在の国道4号線を北上して進む一行を、各地の小学生が迎えました。1週間の滞在中天皇は盛岡にある岩手県庁のほか、勸業場の視察を行いました。また、仁王学校（現在の仁王小学校）では、県内の成績優秀な生徒を集めて、天皇による授業参観が行われました。天皇の東北「巡幸」は明治9年のほか、明治14年（1881）にも行われました。東北地方のほか、全国をめぐるこの「巡幸」の目的は地方の民衆の視察と同時に、発足

したばかりの明治政府の威信を広く示す目的で行われました。明治以降の日本社会のあり方に影響を与えた旅と言えますでしょう。

## 温泉と旅

岩手県には多くの温泉があり、私たちはその恩恵を受けています。温泉には健康に良い効果があるため、江戸時代にも藩主から庶民まで、広く湯治が行われました。温泉が湯治から、レジャー施設として整備されていくのは大正時代のことです。下の写真は花巻温泉のパンフレットです。色彩鮮やかな地図には旅館のほか、植物園や遊技場など、遊戯施設も作られました。また、温泉を訪れる観光客を運ぶ足として、花巻電鉄も整備されました。花巻温泉は岩手県内はもとより全国でも有数の温泉地として広く知られるようになり、ここを訪れる観光客は現在も後を絶ちません。

## 鉄道と旅

旅には目的地がありますが、目的地に向かう途中の語らいや車窓の景色も楽しみの一つです。明治23年に上野～盛岡間が開通したのをはじめとして、明治から大正にかけて全国の鉄道網が整備されるにしたがい、旅と鉄道には切っても切れない関係があります。「鉄道旅行案内



花巻温泉案内（館蔵）

(大正10年)」が発行されるなど、鉄道を利用した旅行のスタイルは現在でも多くの人々に愛されています。鉄道を利用した旅の魅力の一つでもある、懐かしい駅弁の包み紙なども展示いたします。

### 目で楽しむ旅

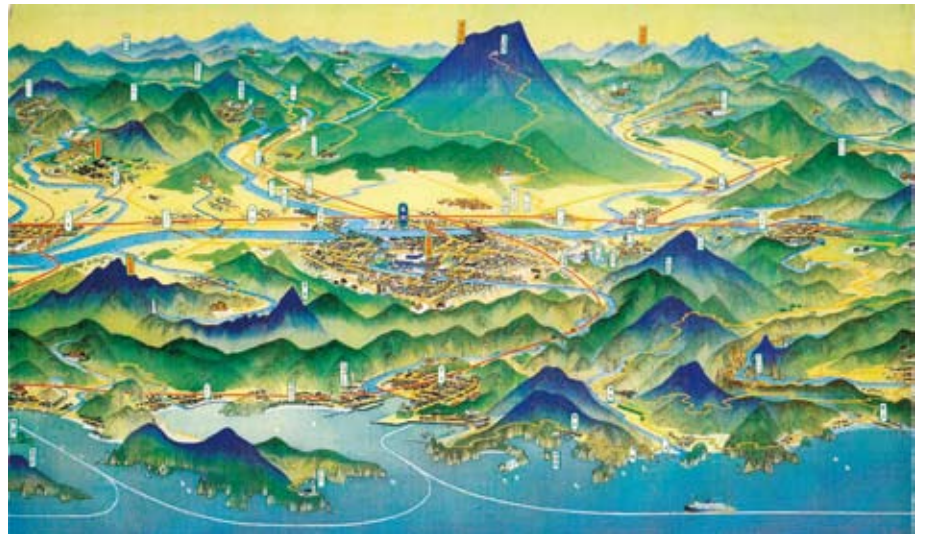
未知の世界に対するイメージを膨らませて旅に出ると、実際にその場所に立ったときの感動がよりふくらみます。実用的な目的で江戸時代に絵図が作られ、明治以降、精密さを増した地図が作成されました。実用面が重視される絵図や地図の中にあって、「岩手県観光鳥瞰図原図」はその大きさといい、描き方といい、圧倒的なスケールの絵です。これは岩手県観光協会の依頼で、吉田初三郎という画家によって昭和12年（1937）に作成されました。吉田が描く鳥瞰図の最大の特徴は、実際にはありえないワイドな視点です。全体を弓状に描き、岩手県の地図でありながら、東京までも描きこまれており、見るものをワクワクさせる、「楽しい」地図であるといえます。



府県名所図会 岩手県宮古浦景 (館蔵)

### 修学旅行

「記憶」に残る旅には様々なものがあ



岩手県観光鳥瞰図原図 (吉田初三郎画 館蔵)

りますが、中学生や高校生に対するアンケートで、「最も思い出に残る出来事」として、修学旅行を挙げる生徒が数多くいます。明治から大正時代にかけて行われた修学旅行について、岩手県内の学校の例を通じて紹介します。また、若き日の石川啄木と宮沢賢治の修学旅行についても紹介します。

### 旅のおわりに

アメリカから日本との友好の証として昭和2年（1927）に日本の小学生に向けて贈られた「青い目の人形」を紹介します。

人形は写真入り人形用の旅券と手紙を持参しました。各地の小学生から熱烈な歓迎を受けたほか、ひな祭りなどの行事にも招かれ、大変愛されました。しかし、太平洋戦争の開始によって、人形は敵国アメリカの象徴として、燃やされるなど

して処分されました。展示で紹介する人形は名前を「マリオン」といい、今も小学校で大切に保存されています。手紙とパスポートも残されており、大変貴重なものです。当時の先生や生徒が人形を守った苦労がしのべれます。アメリカからの長い旅と同時に、時を越えた旅を経て、マリオンは旅が持つさまざまな意味を私たちに教えてくれます。

(学芸調査員 原田祐参)



左:マリオン、右:人形査証 (雫石町立下長山小学校蔵)

### もよおし

#### ■展示解説会

12月19日(土)・2月11日(木・祝) いずれも14:30～15:30 特別展示室 要入館料

#### ■県博日曜講座

1月24日(日) 13:30～15:00 教室 当日受付 無料

「修学旅行今昔物語」 講師：原田祐参 (当館学芸員)

#### ■いわての博物館交流セミナー

2月7日(日) 13:30～15:00 教室 当日受付 無料

「新渡戸稲造と旅」 講師：田崎農巳氏 (盛岡市先人記念館 学芸員)